

— 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（本文の表記の一部を変えています。）

突然ですが、自分の好きな「本」を思いうかべてみてください。まず思い起^こすのはどんなことでしょうか。もしかすると本の内容より先に、その装丁や書体、紙の手触りやページをめくる音など、感覚的な記憶がよみがえつてくるかもしれません。コンテンツ（情報）としての「本」ではなく、モノとしての「本」は、いろんな大きさの判型が決められ、紙に印刷され、製本され、カバーがかぶせられ、梱包されて、取次店から書店の棚に①ナラび、私たちはそれを手に取ることができます。

アメリカの月刊誌『ライフ』は、一九九八年に過去一〇〇〇年の最も重要な出来事と人物のそれぞれの一〇〇選ランディングを発表しました。その結果、最も重要な出来事の第一位に選ばれたのは、グーテンベルクの活版による聖書の印刷でした。印刷術の発明は、聖書の普及によって宗教改革を刺激し、特定階級のものであつた読み書き能力を②タイシユウレベルに広げ、人類の③の先駆となつたとしています。

もちろん現代の私たちも、④その恩恵を受けています。そして、この本づくりの世界でも、技術は日々進化します。印刷業界では、おおよそ五〇年の間に大きな技術革新が二回起きました。一度目は、⑤から電算写植へ、二度目は、電算写植から⑥へ。二十一世紀に入り、本づくりは曲がり角を迎^{むか}えました。

明治時代に⑦ソウギョウした老舗の製本会社であり、「広辞苑」や「六法全書」の製本も手がける牧製本の佐々木さんは、製本の職人仕事を受け継いでくれる若い人がいない、と話しています。機械製本の時代になつても、本づくりを熟知した職人さんがいなければ製本業は成り立ちません。佐々木さんは、こうした技術の担^{にんて}い手がいなくなるという事態によつて製本業が続けられなくななる日が来るかもしれない、という心配をしているのです。

そればかりではなく、人類が知識や情報を得ることにおいて、ずっと^⑧その王座にあった本には、強力なライバルが現れました。パソコンや携帯電話をはじめとするIT機器です。現在多くの人々がこれらの新しい道具によって、毎日の生活や仕事に利用できる便利な情報を得ています。

電子ブックの開発も最近になつて、再び活気を帶びてきました。一九八〇年代から開発が進められ、いくつかの製品も世に送り出された電子ブックは、初めの二十年間はあまり社会に浸透しませんでした。しかしアメリカで研究されてきたEペーパーという技術は、液晶画面^{えきしよう}のように光を発するのではなく、紙に印刷された文字と同じように^⑨反射式で人間の目に入つてくることから、これまでの壁^{かべ}を破る製品として期待されています。

新しい技術と、本づくりを取り巻く環境^{かんきょう}の変化は、果たして本の未来はどうなるのだろうか、という不安と期待を生み出しています。最後にこの点について、印刷^⑩ハクブツカンの栗津潔さん^{あわづきよし}の言葉を紹介します。

「私は今ところ^⑪ というふうに考えたことはありません。それは本が、紙やインキや布や革や糊^{のり}といったようなマテリアル（モノ＝物質）だからです。このマテリアルの力は、非常に大きいものです。

デジタル機器が非常に発達して便利な知識をいち早く流したり、あるいは文学や絵画のような芸術作品まで提供したとしても、それはあくまで情報の範囲^{はんい}を出ていません。マテリアルを伴わない情報だけでは、人間は決してそれを全面的には^⑫シジしないでしょう。^⑬自分の好きな本をいつも鞄^{かばん}に入れたり、手にとつて眺めたり触つたりすることは、人間にとつてとても大切なことです。形のない本の中身だけが、重要ではないのです。

コンピュータがつくり出すさまざまなものにとつて代わるのだ、と煽^{おおお}かれたりもします。でも少なくとも本や絵画などを見る限り、現在のところ紙の上にインキや絵の具で表現されたものの方が、圧倒的にオーディナルな力を発しています。先入観を捨てて素直^{すなお}な心で見れば、それは誰^{だれ}にでも分かることです。むしろ若い人たちが、そう感じているのではないでしようか。

⑭

私は、人類の進歩や科学技術の発展を疑うわけではありません。今後、デジタルの世界から、優れたものが生まれてくるすぐ

かもしれません。〔15〕 そうであつても人類は必ず、情報だけでなくマテリアルによつてバランスをとるはずです。
ともに活かすということです。人類の智恵は〔16〕そのようにして進むものだと、私は信じています」

(「『本の未来』 2003」 福井信彦)

注 電算写植・・・「写植」(写真植字)とは、金属製の活字を用いず、写真の原理を使って文字をフィルムに焼き付けること。この写植を、電算機(コンピュータ)で行えるようにしたもの。

問一 一 部①・②・⑦・⑩・⑫のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 □部③に当てはまる言葉を、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日進月歩 イ 情報革命 ウ 宗教論争 エ 温故知新

問三 一 部④「その恩恵」とあります。どのようなどとの「恩恵」ですか。文中から六字でぬき出しなさい。

(句読点は字数に入れます。)

問四 (1) □部⑤・⑥に当てはまる言葉を、次のア・イからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア D T P (デスクトップ・プリント・システム。パソコンを使って印刷物のデザインやレイアウトを作成、編集し、プリンターで出力する。)

イ 活版印刷(凸版という板を用いて、文字を紙に転写する印刷方法。金属製の活字のパーツを組み合わせて、糸で全体をしばつて固定し、凸版を作る。インクをぬって、紙に押し当てて転写する。)

- (2) 次の文章の場面は、ア DTP イ 活版印刷 の、どの作業に当たりますか。最も適当なものを、ア・イから選び、記号で答えなさい。

ジョバンニはすぐ入り口から三番目の高い卓子に座った人の所へ行つておじぎをしました。その人はしばらく棚をさがしてから、「これだけ拾つて行けるかね。」と言ひながら、一枚の紙切れを渡しました。ジョバンニはその人の卓子の足もとから一つの小さな平たい箱をとりだして向うの電灯のたくさんついた、たてかけてある壁の隅の所へしゃがみ込むと、小さなピンセットである粟粒あわづぶぐらいの活字を次から次と拾い始めました。

〔銀河鉄道の夜〕みやざわけんじ宮沢賢治

- (3) 印刷技術が発明される前には、「聖書」はどのような方法で人々に伝えられていたでしょうか。考えて書きなさい。

問五
——部⑧「その王座にあつた本」とあります、どのような意味ですか。「一番」という言葉を必ず入れて、文中の言葉を使つて三十五字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問六　——部⑨「反射式」とありますが、「反射光」・「透過光」について次のような意見もあります。次の文章を参考にして、「反射光」の方が、より適当であると思われるものを、あとのア～エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

紙に印刷された文書のほうが、パソコン画面よりも、原稿のミス、間違いを見つけやすい理由として、「反射光」と「透過光」の性質の違いが指摘される。前者は本を読むとき、いつたん紙に反射してから目に入る光。後者はパソコンやテレビ画面を見るとき、直接目に入る光である。

紙に印刷して読むとき、すなわち反射光で文字を読む際には、人間の脳は「分析モード」に切り替わる。目に入る情報を一つひとつ集中してチェックできるため、間違いを発見しやすくなるのだ。

これに対しても、画面から発せられる透過光を見る際、脳は「パターン認識モード」になる。送られてくる映像情報などをそのまま受け止めるため、脳は細かい部分を多少無視しながら、全体を把握しようとする。細部にあまり注意を向けられないので、間違いがあつても見逃してしまう確率が高くなる。

『紙に印刷すると間違いに気づく?』
河内康高(かわうちやすたか)

- ア 提出しようと思うポートの漢字が、正しいかどうかたしかめる。
- イ 前に実物を見たことのある絵が、どんな構図だったか思い出す。
- ウ 最新のニュースにどのようなものがあるか、見出しだけ流し読みする。
- エ 他の人の書いた意見文に、不自然な表現がないかチェックする。

問七

□ 部⑪に当てはまる言葉として最も適當なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 印刷された本がなくなるとか、非常に少なくなる
イ 印刷された本が、百年後までもずっと残つていく
ウ 印刷された本は、電子ブックよりもすぐれている
エ 電子ブックが、印刷された本よりも活用されていく
オ 電子ブックが、さらにもめざましい発達をとげていく

問八

――部⑬は、どのようなことの具体例ですか。文中の言葉を使って二十字以内で答えなさい。

(句読点は字数に入れます。)

問九

□ 部⑭～⑯に入る適當な語を、次のア～オのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば イ でも ウ つまり エ もちろん オ なぜなら

問十

――部⑰「そのようにして進むものだ」とありますが、筆者はここで、人類はどのように進歩していくと考えていますか。

文中の言葉を使って書きなさい。

二 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。（本文の表記を一部変えていきます。）

一度目の目覚めは、もう昼の日差しがワンルームの真ん中まで差し込んでいる頃だった。こうなるとよく寝てすつきり、ではない。寝過ぎて頭が重い。もやもやした気分のまま、すっかりアラームの仕事を放棄したスマホをたぐり寄せ、横になつたまま片手で操作し、SNSのアプリを開いた。

おすすめの画面に、同じタイプの投稿ばかりが表示される。見る人の傾向に合わせて好みのページを上位にならべる機能があるようだ。その圧に蹴倒されそうになりながらもいくつかの写真をタップする。

今日も「ていねいな暮らし」の住人は、早朝から白湯を飲み瞑想をし、手の込んだ料理を作っている。見たくもないのに、反射的に指が動く。それでいて楽しい気分になるのではなく、駄目な自分に落ち込む。そのループから抜け出せない。可絵のモーニングルーティンはもう白湯や瞑想じやない。

①——これじやあまるでスマホ中毒だ。
心の中で自分を嘲笑つた。

起床が遅れたせいで、一日の残りがわずかになつてしまつた。ほんやく翻訳した本が完成したと連絡を受けていた。②ユウソウしてもらわずに、編集部まで取りに行こうと思ったのは、あのカフェを思い出したからだ。もともと今日は坂下さんの出社日ではない。編集部の若い男性から本を受け取ると、足早に③路地に向かつた。

路地の入り口にはこの間と同じように、小さな④カンバンが立つていた。でも何かが違う。違和感を抱きながら近づくと、
（免疫力を上げるコーヒーあります）

とあつた手書きのカードに、⑤ツイカで何かが書かれている。よく見ると、（免疫）の字がXで消され、その上に小さく（自己肯定）と記されていた。

「自己肯定力を上げるコーヒー……」

可絵はその場でぼんやりと立ちすくんだ。

〈可絵はカフェに入り、そろりと名乗る店主に表に書いてあつたメニューを注文する。〉

「スプーン山盛り一杯」

とつぶやきながら、そろりさんがすつと背筋をのばす。何かの儀式をするかのように、緑のコーヒー缶から、粉状に挽いた豆をすくって、ケトルに入れていく。

「え、フィルターを使わずに、豆を直に^{じか}入れるんですか？」

可絵がおどろいて尋ねると、

「はい」

そう真剣な顔でうなずいて、再びふたをした。

「これで豆が沈むまで待つんです」

やがてケトルからコーヒーのいい香りが漂ってきたかと思うと、可絵の前に空のカップが置かれ、ケトルがすつと寄せられた。「自己肯定力を上げるやかんコーヒーです。そおーっと^⑥注いでお飲みください」

「やかんコーヒー？」

「お湯をわかしたケトルに挽いた豆を入れて、そのまま置いておくと^{注1}抽出されるんです」

「⑦たつたそれだけ？」

拍子抜けして聞くと、

「はい。それだけです」

と、さも当たり前、という風に答える。

ケトルからカツプにゅくりと注ぐ。少し濁つてどろりとした重みのあるコーヒーだ。一口飲んでみると、深いところの中に、苦みだけでない複雑な味わいを感じた。

ふと手元が明るくなつて、はつと顔を上げると、いつの間にかテーブルにキャンドルが灯されていた。キャンドルホルダーには、

この間と同じくジャムの空きびんが使われている。

「このコーヒー、美味しいですね。飲んだことのない珍しい味がします」

可絵はケトルのコーヒーをカツプに足す。

「ケトルの底に粉がたまつていて、それが^{おぞ}注²雜味になるので、最後まで注ぎきらないほうが……」

時すでに遅し。可絵のカツプには残りのコーヒーが全て注ぎきられてしまつて

「すみません。説明が遅くなつてしまつて」

そろりさんは一瞬、肩をすぼませるが、

「でも、それはそれで美味しいですよ」

そういつたきり背中を向けて、シンクで洗い物をはじめた。

確かに舌触りはざらつとする。でもどつしりとした強さは、体験したことのない味わいだ。コーヒー豆の全てを余すところなく口にしているようで、野性的な魅力を感じる。

——やかんコーヒーつていつていたつけ。

すぐに検索してみようとバッグの中のスマホにのばしかけて手を止めた。⁽⁸⁾別にいまそれを知る必要もない。それにどのみちここでは電波が入らないんだ。

「雑味か……」

口からこぼれ落ちた。

可絵は自分に問いかける。何のためにSNSを見るのか。情報を得るため？ それなら必要なことだけ調べればいい。にもかかわらず、一日二、三時間は当たり前、気づけば五時間以上もぼんやりとスマホばかり見てることもある。起きている時間の大半をそんなことに費やしている。何のために？ sayoさんの暮らしをのぞくため？ 会ったこともなく顔すら知らない人の生活を知つてどうするのか。そもそも「ていねいな暮らし」ってどういうことなのか……。

ケトルの底にたまつたどろりとしたコーヒー豆が刺激になつたのか、次から次へと自分への疑問がわいてくる。

「ていねいな暮らし」の住人たちは、まだ家族が起きてこない早朝や一日の終わりに、自分のためだけにていねいにコーヒーをいれるのが豊かな時間だ、とそろつて口にする。インスタントコーヒーをいれるのですら面倒だと思う可絵は、やはり駄目な人間なんじやないか、と落ち込んだことがあつたが、それは本当に情けないことなのか。鉄のフライパンで上手に餃子が焼けないことが果たして恥ずかしいことなのか。

「私、誰かがいううおしきせの素敵に押しつぶされそうになつていたんです。そうじやなきや駄目だ、つて自分を追いつめてSNSに縛られていた日々のこと」を可絵は打ち明ける。

「ぼくは思うんですけど」

静かに聞いていたそろりさんが、おもむろに口を開いた。

「自分を取り繕つたり自慢をするのってパワーがいるんですよ。だからSNSなんかでそのパワーを真っ正面から受け止め続けるのってけつこうつかれるんじゃないかな、って。⑨よそ見しているぐらいがちょうどいいんですよ。ほら、リストみたいにね」マスクのせいでもぐもぐしているのか、低く静かな声が可絵を安心させる。

「リスト？」

「そう。リストって、冬の間は巣穴の中にこもつて過ごすんです。秋の間に食料を集めておいて、自分はふかふかの冬毛になつて、そうやって冬をうまいことやり過ごすのです」

両方の頬にいっぱいの木の実を詰め込んで巣穴に運ぶリストの姿を想像していたら、気持ちまであたたかくなってきた。

「やり過ごす……」

毎日を快適にしたいと思つたはずなのに、^⑩気づけば「ねばならない」にがんじがらめになつていて。

黙り込んだ可絵を見守つていたそろりさんが、キツチンの引き出しをガタゴトあけた。何かを探しているようだ。しばらくして、ちびた一本の鉛筆が可絵に差し出された。

「これを」

渡されるままに手に持つと、

「芯を持つ、です」

とこの上なく自信を持った口調でいう。

「え？」

可絵がとまどつていると、

「あなたに必要なのはこれです。自分自身の芯を持つことです」

「⑪あ、馱洒落？」

吹き出してしまつた。が、そろりさんはいたつて真面目だ。それからまたゴトゴトやつていたかと思うと、今度は使い古された鉛筆けずりを差し出してきた。三センチ四方ほどのプラスチック製の箱に金具のついたなつかしいタイプのものだ。

「芯を研ぐ。研ぎ澄ます、です」

「これならうだ、といわんばかりの表情だ。

「他人の基準に振り回されて自分を見失つてはもつたいないです。自分がいいと思えばいい。ただ、そのためには自分の研ぎ澄まされた芯を持つことが大切なんです」

「芯……」

両手に持つた鉛筆と鉛筆けずりに目を落としていると、そろりさんがキツチンから出でくる。

「よかつたらそれ、お持ち帰りください」

にこやかにいわれたが、鉛筆なら家にもたくさんある。やんわりと断る。

「そうですか」

残念そうに肩を落としたそろりさんが、はたと顔を上げ、

「ところでアメリカ人つてうすいコーヒーが好きなんだと思^ういます？」

といきなり妙なことを尋ねてきた。

「さあ」

と首を傾げた。きっとインターネットに答えはあるだろう。⁽¹³⁾でもいまはそれよりも、と、可絵はとんがつた鉛筆を想像しながら右手をぎゅっと握りしめた。

（『今宵も喫茶ドードーのキッチンで。』 標野風）

注1 抽出・・・ここではコーヒー豆からお湯を使ってその成分を溶かし出すこと。

注2 雜味・・・本来の美味しさを損なう味。

注3 おしきせ・・・一方的に推されたもの。

問一　——部①「——これじゃあまるでスマホ中毒だ」とあります、このときの可絵の気持ちを説明したものとして最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 每晩遅くまでSNSを見ているせいで、昼まで寝てしまう自分にうんざりする気持ち。

イ 朝起きてすぐに、SNSの投稿を見ないと気が済まないと自分を恥ずかしく思う気持ち。

ウ SNSで人と比べて自分が駄目だと思い、落ち込み続ける自分を不安に思う気持ち。

エ 何も考えず、無意識にSNSのアプリを開いて見てしまう自分にあきれる気持ち。

オ SNSで見る「ていねいな暮らし」にあこがれ、自分も見習わねばとあせる気持ち。

問二　——部②・③・④・⑤・⑥のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問三　——部⑦「たつたそれだけ？」とありますが、可絵はなぜそのように言つたと考えられますか。その理由を説明した次の文

の□部A・Bに当てはまる言葉を、それぞれ五字以内で書きなさい。（句読点は字数に入れます。）

自己肯定力を上げるというコーヒーを、そろりさんがケトルで□A作つてしまつたことに□Bから。

問四　——部⑧「別にいまそれを知る必要もない」とありますが、このときの可絵の気持ちを説明した次の文の□部A・Bに

当てはまる言葉を、それぞれ指定した字数で書きなさい。（句読点は字数に入れます。）

A（五字以内）の世界ではなく、目の前の□B（二字）の世界を大切にしたいと思う気持ち。

問五　——部⑨「よそ見しているぐらいがちょうどいいんですよ。ほら、リストみたいにね」とありますが、ここでそろりさんは可
絵にどのようなことを伝えたかったのですか。五十五字程度で書きなさい。（句読点は字数に入れます。）

問六　——部⑩「気づけば『ねばならない』にがんじがらめになつてた」とあります、「ねばならない」とは「」ではどのような考え方ですか。四十字程度で書きなさい。（句読点は字数に入れます。）

問七　——部⑪「あ、馱洒落？」とあります、可絵は何と何をかけた馱洒落だと思つたのですか。解答らんに合うように書きなさい。（句読点は字数に入れます。）

問八　——部⑫「『芯を研ぐ。研ぎ澄ます、です』／これならどうだ、といわんばかりの表情だ」とあります、

(1) 「芯を研ぐ。研ぎ澄ます」とはどうすることですか。三十字程度で説明しなさい。（句読点は字数に入れます。）

(2) 「「れならどうだ、といわんばかりの表情だ」からそろりさんのどのような様子がわかりますか。三十字程度で書きなさい。（句読点は字数に入れます。）

問九　——部⑬「でもいまはそれよりも、と、可絵はとんがつた鉛筆を想像しながら右手をぎゅっと握りしめた」とありますが、

このときの可絵の思いを書きなさい。

問十　「自己肯定力を上げるコーヒー」によって、可絵はどう変わつたと考えられますか。可絵の変化を説明したものとして**適当**でないものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　SNSを見て面倒くさがりで不器用な自分を馱目な人間だと責めていたが、本当にそう言えるのか考へるようになつた。
イ　わからないことはスマホで何でも調べていたが、ネットに書かれている答えが必ず正しいのか考へるようになつた。

ウ　「ていねいな暮らし」を送ることにこだわり続けていたが、それは自分に合う暮らしなのかどうか考へるようになつた。

エ　SNSを見るのについ時間をかけがちであつたが、自分にとってSNSとはどのような存在なのか考へるようになつた。
オ　生活で手間をかけないことに後ろめたさを感じていたが、手間を省くことで生まれる良さもあると考へるようになつた。